

### 【今日の説教から】

どうして祈り続けているのに、神様に求め続けているのに、応えてくださらないのか。神様は不誠実な方なのだろうか。このような疑問をお持ちになったことがあるでしょうか。

祭司であったザカリヤも、祭司アロンの家系に生まれた妻エリサベツも、「ふたりとも神のみまえに正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落度なく行って」いました。それでもなお、彼らの長い間の祈りは聞かれませんでした。その事は彼らにとって、大変な悩みでした。

時が至ってある日。突然にも彼らの祈りが聞かれる時が来ました。

「すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。ザカリヤはこれを見て、おじ悪い、恐怖の念に襲われた。」

神様は彼の祈りに応えてくださったのに、御業を成そうとしていてくださるのに、彼は困惑し、恐れ、震え上がり、心はかき乱され、恐怖が彼の上にのしかかったのです。どうしてでしょうか。どうして彼の祈りは答えられ、良き知らせが彼に到来したのに彼はそれを受け入れることが出来ないのでしょうか。

「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられたのだ」しかし彼は時が遅すぎると嘆きます。しかし神様は、御使いを通してこう語られるのです。「時が来れば成就する」と。神様の時は来て、事は成就するのです。神様は、神様の最善の時に事を成就させてくださるのです。

今年も主のご降誕をお祝いするときが訪れようとしています。私たちは主のご降誕を指折り数えながらその時を迎えるとしています。

ルカによる福音書1章。ここにも長い間待ち続けていた人たちがいました。

ザカリヤとエリサベツです。

1:5 ユダヤの王ヘロデの世に、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという者がいた。その妻はアロン家の娘のひとりで、名をエリサベツといった。

1:6 ふたりとも神のみまえに正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落度なく行っていた。

1:7 ところが、エリサベツは不妊の女であったため、彼らには子がなく、そしてふたりともすでに年老いていた。

これだけ神様の前に正しく落ち度なく行っているのになぜ、なぜ私たちの長い間の祈りは聞かれないのか。これが彼らの悩みでした。すでに時遅し。祈りはかなえられず、もう妻は老年に至り、自動的に祈りは捨て置かれたと確定されていたかのように見えました。

しかし神様はご自身の最善の時に祈りに応えてくださるのです。

1:8 さてザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務をしていたとき、

1:9 祭司職の慣例に従ってくじを引いたところ、主の聖所にはいって香をたくことになった。

1:10 香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。

1:11 すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。

1:12 ザカリヤはこれを見て、おじ惑い、恐怖の念に襲われた。

主の御使いが現れた。そして神様のお言葉が語られる。神様の御業がついに始められる。これは喜ばしいことです。しかし、ザカリヤはこれを見て、困惑し、心を不安にされ、恐怖におびえ、身震いし、心はかき乱され、恐怖が彼にのしかかったのです。何ということでしょうか。神様のご介入。それは喜ばしき救いのはずだったのに、祈りに対する応答であったはずなのに、それはザカリヤにとって恐ろしい、歓迎されない出来事だったのです。私たちの人生にもそのようなことがあるでしょうか。私たちは、私たちのタイミングで、私たちの望むようにかなえられなければならないと考える節があります。しかし、そのようにならないと、世愛に、私たちの祈りは退けられたと思うのです。そして、そのような、私たちの想定と異なる神様のタイミングやかなえられ方については、私たちは歓迎できないのです。しかし神様は人知を超えたお方です。人知を超えた方法で、ご自身の素晴らしい御業を私たちのうちに完成させてくださるお方です。

1:13 そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられたのだ。

あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。

1:14 彼はあなたに喜びと楽しみとをもたらし、多くの人々もその誕生を喜ぶであろう。

1:15 彼は主のみまえに大いなる者となり、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており、

1:16 そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。

1:17 彼はエリヤの靈と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう」。

祈りが聞かれたのだから恐れることはない、困ることもない、心をかき乱されることもない。恐怖のおののくこともない。神様の御業があなたに現わされるから。

そう考えると、祈りというものは、すごいことなのかなあと思います。それは私たちの願いを、神様の領域におささげするということなのかもしれません。私たちの願いではあるのですが、神様におささげするということは、神様に願いお頼みするということなのですけれど

も、神様の領域に願いを全て差し上げて、あるいは私たち自身の全存在をもお委ねして、神様の御手のお導きを待ち望む、あるいは私多たちの願いが間違っていたり、十分でなかつたり、そういうテストの答案のようなものを神様に提出して、神様はその答案を添削して、完全な状態にして私たちにお返しくださるという事のようなものであるということを、私たちちはこの出来事から学ぶのです。

時として、その神様の添削が、私たちのもともとの願いと遠くかけ離れているという事もあるのだと思います。そうなったとき、私たちは困惑します。すぐにかなえてくださいと祈つたのに、何十年もあとになって叶えるよと言われ、すでに時遅しなのになぜと、私たちは困惑するのですが、神様にとっては、全然時が遅れているわけではなくて、その時が最も良きタイミングなのだという事があるのです。私たちがかつて祈っていたことを、かなえられなくてあきらめて、忘れ果てているにもかかわらずです。

祈りという事は、何ともすさまじいものであることに気づかされます。しかし、祈りは素晴らしいものです。私たちはどう祈つたらいいか分からぬこともあるのですが、神様は最善を成してくださいとお返しくださるからです。

1:18 するとザカリヤは御使に言った、「どうしてそんな事が、わたしにわかるでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」。

これは彼ささやかなる抵抗であったのかもしれません。どうしていまさらという彼の怒りであったのかもしれません。そんなことを言われても、いったい今になってどうしたらそんなことを理解できるものだろうか。彼の悲しみと失望と怒りが透けて見えるような気がします。

「いかにしたらそんなことを理解できようか」

私たちは、良く、そんなこと分からぬとか、理解できないとか、そういうことを口にします。しかし、私たちが理解できるという事など、全世界の真理の中でどれほど小さなものでしょうか。おびただしく多くのことは、21世紀の今になってもいまだ不明のままで。私たち人間が知っていること、理解できることなど、どれほどわずかなのでしょうか。そうであるのならば、私たちが理解できるかどうかなどという事は、どれだけの意味があるというのでしょうか。

1:19 御使が答えて言った、「わたしは神のみまえに立つガブリエルであつて、この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために、つかわされたものである」。

1:20 時が来れば成就するわたしの言葉を信じなかつたから、あなたは口がきけなくなり、この事の起る日まで、ものが言えなくなる」。

彼はいつも神様の前に立つ御使いなのでした。著しく真早く輝いておられる神様のご栄光にいつも照らされ、彼の衣もいつしかその衣自体が輝きを発するように、神様のご栄光と芳

しい香りに包まれて、神様のご愛と恵みに満ちた御業のために縦横無尽に仕えるのでした。そんな神様のご榮光と力強さを御使いは、髓の髓まで日々体験しているのです。それなのに、この人間風情が、いかに血筋が良くて、正しく、行いに落ち度がなかろうと、彼は致命的なことが抜けているのでした。神様のすごさを、迫力を、秤の知れない愛と力を彼は知らなかつたのでした。

喜ばしい知らせなのにどうして。喜ばしい知らせを語っているのにどうして、どうして受け入れられないのか。

これはヨハネ1章にもつながる出来事です。

1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかつた。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

この喜ばしい知らせとは、突き詰めて言いましたら、神様の福音です。神様がイエス様を遣わして、呪わしい十字架にかけて御子の命を取り、すべての人の罪を処断してくださつたのです。しかしこの喜ばしい知らせを人は受け取ることが出来ないのです。どうしてでしょうか。どうしてなのでしょうか。どうして人が、これは正しいことかまやかしかと、この喜ばしい知らせをまな板の上にのせて吟味解剖して結局そこから離れ去ってしまうのでしょうか。人の知性が本当にそこに必要なのでしょうか。

時が来れば神の言葉は実現します。時が来れば実現するのです。神様は、私たちのために時を用意しておられるのです。神様には私たちのために最善の時があるのです。

私たちは、そういう神様を信じて日々歩んでいけば、そこに私たちの幸せと救いがあるのであります。私たちは、静かに、主の前に様々の義も名を持ちながらも、微笑みながら、良きことが実現するのを信じていれば良いのです。

1:21 民衆はザカリヤを待っていたので、彼が聖所内で暇どっているのを不思議に思っていた。

1:22 ついに彼は出てきたが、物が言えなかつたので、人々は彼が聖所内でまぼろしを見たのだと悟つた。彼は彼らに合図をするだけで、引きつづき、口がきけないままでいた。

1:23 それから務の期日が終つたので、家に帰つた。

1:24 そののち、妻エリサベツはみごもり、五か月のあいだ引きこもつていたが、

1:25 「主は、今わたしを心にかけてくださつて、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と言った。

神様は私たちのうちから恥を、罪を、呪いを、死を、悲しみを、叫びを、疑いを取り除いてくださいます。主に賛美いたしましょう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様は私たちの祈りに耳を傾け、喜ばしい知らせを与え、神様の最善の時に、その時が来れば神様はご自分の良き御心を実現してくださることをお知らせくださいまして、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン